



小郡市立小郡中学校 令和6年2月15日

小郡中学校だより 第200号

校長 船津聡哉



学校教育目標 ～夢と志をもって主体的に学び、心豊かにたくましく生きる生徒の育成～

〈2年生修学旅行〉学びの多い修学旅行となりました

修学旅行スローガン 成長

2年生の修学旅行は1月31日(水)～2月2日(金)の日程で広島・京都を訪れ、平和や日本の歴史・文化を学んできました。『成長』をスローガンに掲げ、自分のことや仲間のことを見つめるよいきっかけとなる修学旅行でした。



1日目は、本校体育館で出発式を行い、新鳥栖駅から新幹線で広島へ。広島の天候は曇り。到着後、貸切バスで平和記念公園に行きました。平和記念公園では、佐々木禎子さんをはじめ、原爆で亡くなった多くの子どもたちの霊を慰め、世界に平和を呼びかけるという目的で建立された「原爆の子の像」の前で平和集会を行いました。「誓いの言葉」を読み上げ、千羽鶴を捧げて全員で黙祷…本当の平和のとびらを開くために、自分に何ができるのかを考えた瞬間でした。次に、原爆で亡くなった多くの人々への鎮魂と平和を守っていく決意を込めて「ふるさと」を合唱しました。子どもたちの歌声は平和記念公園に響き渡り、万感胸に迫るものがありました。その後、平和記念資料館の見学、「お好み村」でお好み焼きを堪能し、再び平和記念資料館でさんから被爆体験のお話をさせていただきました。『せっかく広島に来たのだから平和とは何かを考えてほしい。次の時代はみなさんが主役。』というさんの力強い言葉が心に残りました。改めて平和であることの尊さや当たり前で過ごしている日常の大切さを実感できた1日となりました。



2日目は、京都市内班別1日研修を行いました。京都の天候は曇り。事前に班ごとに決めていたコースに別れて、京都の歴史や文化について学習しました。人類の歴史を引き継いだ世界遺産や美しく伝統的な町並みの散策、夜は「舞の鑑賞」もあり、子どもたちにとって楽しい貴重な体験となりました。



3日目は、お世話になった旅館「こうろ」の方々に見送られ、伏見稲荷大社に向かいました。まず、「あかね屋」で清水焼絵付け体験を行いました。事前に下書きしてきた絵柄を真剣にマグカップに描く姿があり、楽しく京都文化に触れることができました。その後、徒歩で伏見稲荷大社へ。伏見稲荷大社は全国に約3万社ある稲荷神社の総本宮で、その歴史は平安遷都よりも古く、和銅4年(711)の創建と言われています。“千本鳥居”…朱塗りの鳥居がズラリ



旅館「こうろ」にて

つら こうけい あつかん
と連なる光景は、圧巻でした。

2年生は、この修学旅行でたくさんのことを学んだことでしょう。広島では戦争の悲惨さと平和のありがたさを実感し、日本の平和、世界の平和に寄与できる人になるための第一歩になったのではないのでしょうか。京都では多くの文化財の見学や観光を通して、歴史や文化の素晴らしさもたっぷり堪能することができたことでしょう。また、拡大実行委員会を中心に生徒一人一人が修学旅行の全体、自分の役割をよく把握し、自分は何をしなければいけないかを考えて行動することや協力することの大切さも学んだことと思います。成長したところも多くあった反面、課題も見えた修学旅行でしたが、4月からは最上級生です。自覚と責任をもった行動に大いに期待しています。



人権フォーラム開催！…小学6年生と本校1年生が交流しました

2月14日(水)に小郡小学校6年生を招いての「人権フォーラム」を行いました。入学説明会や交流会、部活動紹介に生徒会執行部を中心とした1, 2年生が関わることで、小学6年生に中学校生活への夢や期待を膨らませる機会としています。また、この取組は、「中1ギャップ」が課題になり始めた平成11年度から実施しています。本校1年生と小学6年生が交流を深める場合は、小学6年生の中学校への不安を少なくしたり、疑問を解決していくことが大きな目的です。本校1年生も1年前を思い出したことでしょう…6年生の質問にも一生懸命にアドバイスしている姿があり、「先輩」になるという気持ちも強くなったのではないのでしょうか。15名のフォーラムコーディネーターのみなさまにもお世話になりました。ありがとうございました。



人間が一番うれしいことは何だろう？

『ひとはひとをよろこばせることが一番うれしい』…これは「アンパンマン」の作者やなせたかしさん(2013年10月13日94歳で亡くなりました)のことばです。やなせさんは50歳でアンパンマンを描き始めましたが当時は人気がなく、アニメ化しブレイクしたのは70歳になる直前のことでした。継続は力なりを身をもって実証された方ですが、「もうひとつのアンパンマン物語」より、次のことばが紹介されています。

『人間が一番うれしいことはなんだろう？ 長い間、ぼくは考えてきた。そして結局、人間が一番うれしいのは、人をよろこばせることだということがわかりました。実に単純なことです。ひとはひとをよろこばせることが一番うれしい。』

家庭でも家族が喜んでくれることに喜びを覚え、学校や職場でも他人の感謝のことばにやりがいを感じたりします。「誰かの役にたっている」その思いが自分の原動力になるということでしょう。生きていくモチベーションは、つまり人の幸せを願い、その喜んだ顔を見ることで、自分も幸せだと感じることなのかもしれません。

※この『小郡中学校だより』も200号となりました。今後もよろしくお願ひいたします。